

運動部学生の修学に対する 学生競技連盟の取り組みに関する調査結果ダイジェスト

運動部学生の学修に対する配慮などについての学生競技連盟の現状を把握し、競技連盟間や大学間の連携ニーズを探るために、本連合は朝日新聞社と共同で全国42の学生競技連盟を対象にアンケート調査を実施した。

調査の概要

調査期間: 2015年3月1日から4月1日

調査対象: 国内42学生競技連盟

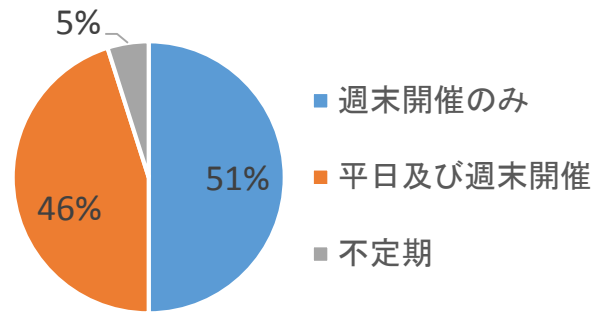
有効回答数: 41連盟(有効回答率98%)

結果報告: 本ダイジェストは全国体育連合ホームページに掲載中。

報告書は『大学体育』第106号に掲載予定。

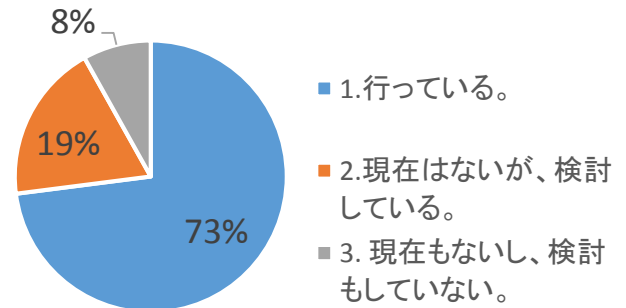
結果1 組織主催の試合日(学期中)について

学期中の試合日について「週末開催のみ」と答えた連盟は21(51%)、「平日及び週末開催」と答えた連盟は19(46%)、「不定期」と答えた連盟は2(5%)であった。また、「平日開催のみ」と答えた連盟は0であった。



結果2 公式戦の平日開催を避ける取り組みについて

27連盟(73%)が「行っている」と答えており、「現在は無いが、検討している。」と回答した連盟は7(19%)、「現在もないし、検討もしていない。」と回答した連盟は3(8%)であった。



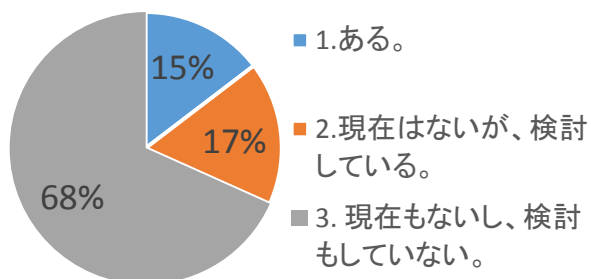
結果3 学期中の週末開催に変更する場合の課題について

「週末の競技場の確保が課題」と答えた連盟は20(49%)、「リーグ戦の方法や試合数などの大会方式を変えなければいけない」と答えた連盟は11(27%)、「全国大会を含め、集中開催型の試合の場合は難しい」「その他」と答えた連盟は10(24%)であった。また、「長年の伝統を変えなければいけない」と答えた連盟は2(5%)であった。

1. 週末の競技場の確保が課題。	49%
2. リーグ戦の方法や試合数などの大会方式を変えなければいけない。	27%
3. 全国大会を含め、集中開催型の試合の場合は難しい。	24%
4. 長年の伝統を変えなければいけない。	5%
5. その他	24%

結果4 学修に関して検討する機関・委員会等について

「現在もないし、検討もしていない」と答えた連盟は28(68%)であった。「現在はないが、検討している」と回答した連盟は7(17%)、6連盟(15%)が「ある」と答えた。



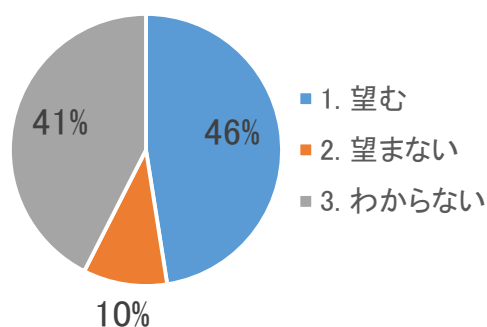
結果5 修学や就職活動に対して行っている配慮について

修学や就職活動に対して行っている配慮について、自由記述形式で回答を得た。主な回答は以下の通り。

就職説明会等の案内や開催に対して、インフォメーションするなど連盟として協力している。
修学に関しては土日の週末に開催できる会場を検討中。
企業との面談サポート、実業団連盟との密接な交流。
加盟大学に就職活動に関するセミナー開催を指示。
専門業者に依頼し、転職フォーラムを開催している。
就職活動として4年生に対するQT受験の容認。一定単位数を満たさない学生は試合にでることは不可。これを徹底するために毎年継続加盟大学全員に対し、成績表コピーの提出を義務付けている。
試験期間について各大学にヒアリングをし、試験前2週間は試合を組まないようにしている。また、選手権には3年生主体で出場するようにし、就職活動には影響しない。

結果6 日本版NCAA組織設立への期待について

19連盟(46%)が「望む」と答えており、「望まない」と回答した連盟は4(10%)、「わからない」と答えた連盟は17(41%)であった。



作成: 課外活動支援特別委員会
重藤誠市郎、伊東克、北徹朗、高橋宗良、西垣景太、小林勝法